

令和7年度

運営に関する計画

大阪市立東淡路小学校

令和7年4月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

昨年度当初から「いじめ」は絶対にいけないことを伝え、折々に考えさせてきたこと、また「いいことみつけ」のような仲間づくりにつながる活動を継続してきたことが少し成果として現れた。不登校については担任だけではなく学校の問題として、また子どもサポートネット、区役所各担当等と連携して取り組んでいる。保護者や家庭全体へのサポートが必要なケースもあり、慎重を要するケースもある。「人の役に立つ」については、昨年度は「人に親切にする」という子どもにわかりやすいことばで呼びかけ年間を通じて指導を進めた。学校を子どもたちがリラックスしながらも前向きな気持ちで過ごし、あたたかな心を育てることができるような場にしていくことが、いじめにせよ不登校にせよ減少させるためには重要であると考える。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

昨年・一昨年の 2 年間、算数科を研究教科にすえ、指導力の向上、子どもたちの学力向上に取り組んできた。一昨年度は数と計算領域に限定していたが、昨年はさまざまな領域でより理解や習得が進むことを重視し研究を進めた。5 段階の問題解決学習に沿いつつ、子どもたちが自分の考えをかくこと、自力解決だけでなく、ＩＣＴを活用した他者参照を取り入れたり、対話の場面を増やしたりすることで学力向上につながったと考えている。あわせて漢検を用いた漢字学習、百ます計算といった国語算数の基礎学力強化の取組も継続してきた。特に補充学習のひがあわタイムはドリル類の「まちがいなおし」を中心に進めたことで、参加している子どもにも参加している意義を感じるものとなった。運動やスポーツについてはこれまでの取組を工夫して実施してきたが、「好き」の割合は下がった。校舎改修工事が始まり、教室から階段を下りて来ても、そこから運動場までまだ 120m 以上ある状況から、高学年の外遊びの人数が減ったことが一昨年から昨年の数値が 3 % 低下した大きな要因と考える。

【学びを支える教育環境の充実】

一昨年度まで、教師用 PC からの指導者用デジタル教科書の提示や書画カメラのポーズ機能を用いて、子どものノート等の提示に毎日大型テレビを活用してきたが、学習者用端末の活用が毎日ではないため、昨年度は、朝の「心の天気」の入力、すき間時間に行える「らっこたん」を活用したタイピング練習を特に推奨してきた。しかし使用率が 80 % を超えたのは 15.7 % にとどまっている。80 % の元の数が児童数なので、欠席が多いと、それだけで使用率は下がる。また遅刻等で朝の心の天気の入力が確実でない子どもも多かった。「朝登校して荷物を片付けたら心の天気を入力して、端末は横の手提げ袋に入れる」ことの習慣化を進めたい。

働き方改革については全般によく進んでいるが、急な会議や伝達研修等が持ちにくく、意思統一が図りにくい面がある。また、教職員は交代交代で「今日は遅くまでがんばる」が、それに合わせている管理職においては労働時間が伸びがちであることなどの課題が多い。いろいろな点からの精選、スリム化が必要である。

本来であれば今年度末で完成することを想定されていたと思われる校舎改修工事がこの 5 月にやっと開始し、完成は令和 10 年 1 月となった。工事本体に付随して、工事の中、

子どもたちが安全に学校生活を送れるようにするための物的環境の整備や各所の使い方の整備、子どもたちの看護のための人の動きの整備など、目に見えない部分での環境整備を教頭を中心に学校全体として取り組んでいることへの理解を求めたい。工事期間は今後も続くが、この点の環境整備を地道に進めていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、90%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を前年度（96.6%）以上にする。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も1ポイント向上させる。（1ポイント=0.01）
- 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も1ポイント向上させる。（1ポイント=0.01）
- 令和7年度の小学校学力経年調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を69.0%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50パーセント以上にする。
- 第2期「学校における働き方改革推進プラン」に掲げた、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を89.3%以上にする。
注)基準1…以下の2つを共に満たす。
①1か月の時間外労働時間が45時間を超えない。
②1年間の時間外労働時間が360時間を超えない。
- 年度末の学校アンケート（保護者対象）で、「学校は、教室や運動場などの環境を整備するよう努めている」への肯定的な回答を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を前年度（96.6%）以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
(1ポイント=0.01)
- 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
(1ポイント=0.01)
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度（69.0%）以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 第2期「学校における働き方改革推進プラン」に掲げた、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を前年度（89.3%）程度にする。
- 年度末の学校アンケート（保護者対象）で、「学校は、教室や運動場などの環境を整備するよう努めている」への肯定的な回答を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式 2)

大阪市立東淡路小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90 % 以上にする。 ・小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を前年度（96.6 %）以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を職員全体で共有し、集団指導体制の充実を図る。 ・いじめの早期発見・解消のために、いじめに関する年間計画（いじめについて考える日・いじめアンケートなど）を作成し、計画に従い実践する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題のある児童や配慮を要する児童の情報を共有し、対策を講じるための「児童理解連絡会」を月 1 回開く。 ・いじめアンケートを学期ごとに年 3 回実施し、認知したいじめ事案については 100 % 捨い上げ、解決を目指す。 <p>取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たてわり班の編成をし、活動の活性化を図る。 ・きょうだい学年や異学年での活動を意図的に取り入れ、異学年交流をすすめる。 ・福祉学習を行い、思いやりをそだてるとともに、様々な人の生き方に学ぶ。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たてわり班活動（朝の集会、全校遠足、スポーツ集会）を年間 10 回以上実施する。 ・他学年との交流を含めた学習を各学年とも年 1 回以上行う。 ・4 年で車いす、5 年で盲導犬・アイマスクに関する福祉体験学習を行う。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立東淡路小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。(1 ポイント = 0. 0 1) (前年度国語 4 年 : 0. 9 8 、 5 年 : 0. 9 9 、 6 年 : 1. 0 4) ・小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。(1 ポイント = 0. 0 1) (前年度算数 4 年 : 1. 0 4 、 5 年 : 1. 1 1 、 6 年 : 1. 1 7) ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度（ 6 9. 0 % ）以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語力の基礎となる漢字の習得のため、2 学期に校内漢字検定、3 学期に 1 ~ 4 年生は校内漢字検定、5 ・ 6 年生は日本漢字能力検定を実施する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年で習う新出漢字を 2 学期までに終わらせるように計画し、3 学期は問題演習に取り組み、合格者の割合を 5 0 % 以上にする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人が参加し、主体的で対話的、深い学びのできる授業を工夫する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に 1 回程度「ひがあわタイム」を設置し、全教員で放課後補充学習を行う。 ・全員参加型の研究授業・研究討議会を年 3 回実施する。またその他の研究授業や校内研修を充実させていく。 	
<p>取組内容③【基本的な方向 5 健やかなる体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業間なわとびの日程や内容を工夫して実施する。 ・児童の運動意欲を高められるような企画を計画して実施する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業間なわとびを年間 5 日実施する。 ・運動委員会を中心に、児童の運動意欲を高められるような企画を計画し、年 2 回以上実施する。 	
年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立東淡路小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の 8 割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の 50 % 以上にする。 第 2 期「学校における働き方改革推進プラン」に掲げた、教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を前年度（89.3 %）程度にする。 注) 基準 1 …以下の 2 つを共に満たす。 <ul style="list-style-type: none"> ① 1 か月の時間外労働時間が 45 時間を超えない。 ② 1 年間の時間外労働時間が 360 時間を超えない。 年度末の学校アンケート（保護者対象）で、「学校は、教室や運動場などの環境を整備するよう努めている」への肯定的な回答を 90 % 以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味・関心を高めるために、一人一台端末を積極的に活用していく。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校活動の中ではほぼ毎日、書画カメラ、デジタル教科書、Google Classroom、まなびのポータルなどを効果的に活用する。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事を含めた教育課程や会議等の精選を図るとともに持ち方を工夫する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員会議の資料を 3 日以上前にデータで配布する。 通知表の芸能教科等の 1 学期の評定を、2 学期とまとめる。 家庭訪問の代わりに個人懇談を行い、学級懇談会との選択制にする。 プール清掃、にがりまきを外部委託にする。 出欠連絡と手紙の配布にリーバーやミマモルメといったアプリを活用する。 	
<p>取組内容③【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備委員会を計画的に行い、配慮を要する児童に対応した設備など、安全・清潔で効果的な学習環境を整える。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備委員会を年 2 回以上行い、環境整備に関する課題を共有化する。 防音キャップ設置教室を増やす、教室内に土や砂を上げないなど、安全・清潔で効果的な学習環境を整える。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点